



※写真は実車でイメージです 実際の製品仕様と異なる場合があります

◆製品化特徴

<共通>

- ・ハイグレード(HG)仕様
- ・クハは高運転台で、交直流車標準の赤13号と前面に警戒色として入ったクリーム色の塗装で再現
- ・クハは乗務員扉からサッシ窓までの寸法が113系と異なる車体を再現
- ・前面貫通扉の渡り板は別パーツ化で小型または大型を選択可能
- ・検電アンテナ台座は円錐型を装着、角型は付属のパーツで交換可能
- ・常磐無線アンテナは配管をモールド、アンテナ本体はパーツ取付済み
- ・モハ400形の床下は交直流電車特徴の変圧器など再現
- ・ヘッド・テールライト、前面表示部は常点灯基板装備、ON-OFFスイッチ付
- ・ヘッド・テールライト、前面表示部は電球色LEDによる点灯
- ・前面表示部はカラープリズムの採用により白色に近い色で点灯
- ・前面表示部は交換式で印刷済みパーツ「普通(白地)」 「白幕」を付属
- ・車番は選択式で転写シート付属(増結セットにも付属)
- ・新集電システム・黒色車輪採用・TNカブラー(SP)標準装備

<97228>について

- ・モハ401形が動力車の基本4両セット
- ・フライホイール付動力、M-13モーター採用

<97229>について

- ・モハ401形がトレーラー車の増結4両セット

401系近郊電車・高運転台「赤電」

◆実車ガイド

- ・茨城県取手まで直流電化された常磐線ですが、その先からは沿線にある地磁気観測所の観測に影響がでない交流電化となるため、取手から先の中距離用として交直両用の401系近郊電車が1960年に開発されました
- ・両開きドアを片側3か所配置しセミクロスシートの室内を持つ車体形状は、その後の国鉄近郊形電車の基礎となりました
- ・初期の前面形状は153系と同形状の前面窓が大きい低運転台でしたが、クハ401形の23番からは153系同様、踏切事故対策による高運転台構造が採用され、前面窓も縦寸法が詰められ高い位置になりました
- ・パンタグラフを搭載したモハ400形は、屋根上の機器類や床下にある変圧器により、交直流電車の特徴を色濃く現していました
- ・交直流車標準のローズピンクとも言われる赤13号に、前面には警戒色として帯状にクリーム色を入れた外観は、沿線の通勤通学客から「赤電」と呼ばれ親しまれますが、つくば万博開催に備え1983年頃からクリームに青い帯の姿に順次変わりました
- ・403系や415系とも編成を組みながら、塗装変更の過渡期には新塗装との併結も見ることができました

【文責:トミーテック】

◆ここがポイント

POINT

赤電と親しまれた、赤13号と前面クリーム帯の姿を再現

<別売りオプション>
室内灯: <0733>LC白色

●並べて楽しめる商品●

「赤電」だけの長編成や、新塗装と混成して
塗装変更過渡期の姿も！

453系ときわ



103系エメラルドグリーン



キハ58系ときわ・奥久慈



485系ひたち

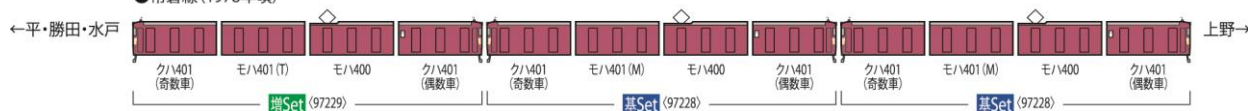


24系ゆうづる

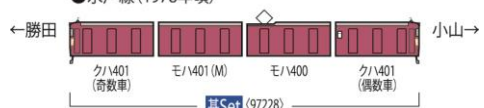
常磐線を駆け抜けた往年の車両をラインナップ
お手持ちの車両と一緒に常磐線フリークを極めよう！

■セット内容・編成例

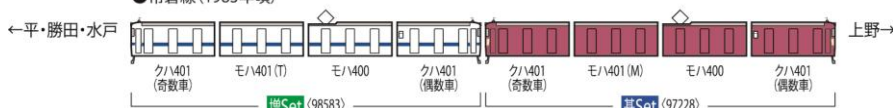
●常磐線(1978年頃)



●水戸線(1978年頃)



●常磐線(1983年頃)



※特性の違いから415系などM-9モーター搭載車との連結走行は避けて下さい

品番	97228	品名	国鉄 401系近郊電車(高運転台)基本セット		セット両数	4両
発売月	2026年4月	JANコード	4543736972280		予価	¥23,100 (税込)
原産地	日本	パッケージサイズ	218×304×34mm	パッケージ形態	ブック型ブラケース	
品番	97229	品名	国鉄 401系近郊電車(高運転台)増結セット		セット両数	4両
発売月	2026年4月	JANコード	4543736972297		予価	¥17,490 (税込)
原産地	日本	パッケージサイズ	178×230×30mm	パッケージ形態	紙箱	

TOMIX

2025.10.9発行

©TOMYTEC ※製品は、実車の型式・仕様とは異なる場合がありますのでご了承をお願いいたします。 ※イラスト・写真などは製品と一部異なる場合があります。